

健康医療スポーツ学部 看護学科

教育方法と教育の特色ある工夫

本学の各学科・コースは、教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー、以下CP）に基づき、それぞれの特色を活かした教育方法による授業を行っています。さらに、資格取得科目の充実など、教育方法に工夫を重ねながら、教育内容の向上に取り組んでいます。また、大学全体として、全学部生が共通して履修する必修科目、「フレッシュセミナー」「アドバンスセミナー」においては、少人数教育を実践しています。セミナー担当教員は、各学部・学科・コースのCPに基づく学修指導の他、学生生活全般にわたる指導を行っています。これにより学生は、社会人として求められる常識や教養等の汎用的能力と、各自の専攻分野や関心領域に関わる幅広い知識をバランス良く身につけることができます。この「セミナー」は、キャリア教育の一環として、学生の様々な相談にも応じています。

【教育方法】

看護師・保健師・助産師に期待される使命は、様々な環境や状況の中で暮らす様々な健康状態にある人びとの「生活の質」の向上を目指し、良質なケアを創造的に提供していくことです。看護学科では、このような社会からの要請に十分に答えられるような柔軟で豊かな感性を持ち、信頼される専門的知識や技術を備えた人材の育成を目指しています。そのため専門科目群ではどの科目も「講義」「演習」「実習」という段階を踏みながら学ぶようにカリキュラムを組んでいます。つまり「講義」で学んだ理論や科学的根拠を基に、技術や行動としてどのように展開していくかを「演習」で学び、臨地での「実習」で実践力として身につけていけるようにしています。

【教育の特色ある工夫】

- ・看護職に期待されている使命は、対象となる人々の「生活の質」の向上をめざし、柔軟で豊かな感性をもとに良質なケアを創造的に提供できることです。
- ・看護学科は、1年次から、他者と柔軟に共感的に関わっていけるコミュニケーション力を高め、早期に専門職としての責任と自覚を促すために、「フレッシュセミナーⅠA・B」を積極的に活用しています。学生約20人を1人の教員が担当し同一の内容で授業を展開しています。授業内容は、「自己理解を深める」「論理的な文章を書く」「ナース・ルック（看護師を知ろう）」「ゴミ拾いから見えるちはら台の街」などテーマに沿ったグループワーク、体験学習を中心に展開することで、意見を調整し、活動計画を立て、行動し、結果を評価するという能力が身につくよう配慮しています。
- ・また、2年次の「フレッシュセミナーⅡA・B」では、体験学習を主とする展開を継続発展させ、看護協会主催の「まちの保健室」や各地市民祭りなどに参加し、「禁煙啓発活動」や「健康チェック」な

どのテーマに関わることで、学んだ知識・技術を活かしながら地域住民との交流や保健医療の必要性について考察できる機会をつくっています。

- ・専門科目（看護学）はすべての領域とも原則として「〇〇概論」「〇〇方法論Ⅰ」「〇〇方法論Ⅱ」「〇〇看護技術（又は演習）」の柱立てに統一し、学生がその科目で系統的に何を学ぶのかが想起できるようにしています。すなわち「概論」では、各領域で対象となる人々の特徴や必要な理論を理解させ、「方法論Ⅰ」「方法論Ⅱ」において、成長発達の状況や健康のレベルに応じて起こりやすい健康障害、特徴的な徴候や症状、それに対応した看護の方法を、看護診断過程をたどりながら理解させます。これらの専門的知識を修得したのちに、領域に特徴的な技術が習得できるよう、各領域に「技術（又は演習）」科目を設け、専門知識・技術・態度が具体的に臨地実習で展開できるよう科目の配置を行っています。
- ・「統合分野」は①地域支援力の育成 ②国際的視野の育成 ③チーム医療における役割と協働の理解④職業アイデンティティと職業倫理の醸成 ⑤研究能力の育成一等を鑑みて科目構成していますが、特に「人間と社会と看護」では、保健医療福祉サービスが地方行政あるいは国レベルでどのように提供されているか、その一方でどのような問題が起きているのかについて、JICA（国際協力機構）やハンセン病療養所の見学・講義、B型肝炎被害者の方々の講義等を通して理解できるようにしています。